



第 15 回子どものからだと心・西日本研究会議（福岡）

終了のご報告（お礼）

謹啓 向暑の候、皆さまにおかれましては、教育・研究・地域活動にご清栄のことと存じ上げます。新型コロナ（COVID-19）感染症の収束がなかなか見えないところではありますが、徐々にこの感染症との付き合い方や対処の方法がわかってきました。科学的知見に基づいて、新しい生活様式に慣れていかねばと考える次第です。

さて先般、福岡市にある西南学院大学・コミュニティーセンターを会場に、「第 15 回子どものからだと心・西日本研究会議」を対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催しました。当日は、北は北海道（オンライン参加）から、南は鹿児島（対面参加）まで、多くの皆さまにご参加を賜り、誠にありがとうございました。参加者数は、対面とオンライン合わせ 58 名で、盛会に終了することができました。ご参加くださった方々、関係各位に厚く御礼申し上げます、ありがとうございました。

特別講演では議長の野井真吾先生に「コロナ禍で考える！子どもの育ちと学び」というテーマでお話いただきました。野井先生や本連絡会議が蓄積してきているデータを基に丁寧に講演いただき、しっかり動くことやぐっすりと眠ることの意義を説いていただきました。「光、暗闇、外あそび」実践を地道に行うことの大切さを認識し、このキャッチフレーズを広めていきたいと考えたところでした。また『子どものからだと心白書 2021』の学習を深め、九州にも広めようと、白書編集委員の鹿野晶子先生と田中良先生にポイントを絞って解説をしていただきました。この研究会議に初めて参加した方から、「貴重な子どものデータ集で大学の授業で活用したい」との感想をいただきました。特別講演と学習をふまえ、最後に情報交流を行いました。時間が足りないくらい活発に議論・交流できました。

ハイブリッドでの開催に不慣れでもあり、時々、通信が不安定にもなりましたが、大きな通信事故もなく終えることができました。会場をご提供くださった西南学院大学の皆さまには心中より感謝申し上げます。また子どものからだと心・全国研究会議と同様に、学生ボランティアが種々の業務を手伝ってくれました。筑紫女学園大学児童教育学科・久留米大学スポーツ医科学科の学生スタッフの皆さまに感謝を申し上げます。

最後になりましたが、西日本研究会議の開催にあたり、子どものからだと心・連絡会議よりご支援を頂戴しています。ありがとうございました。

略儀ながら、第 15 回子どものからだと心・西日本研究会議終了のご報告とします。

謹白

2022 年 6 月 23 日
第 15 回西日本研究会議
実行委員 野田 耕